

(別紙5)

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

入所施設である妙光園へ発電機を導入することで、万が一コロナウイルス感染者が発生した場合、隔離場所でも安定して電気を供給できると考える。また、体温検知カメラを玄関に設置し、来訪者に対し対策の基本である体温測定を徹底して行うことができる。法人で運営しているレストランスプレッドでは、お客様が安心して過ごせる環境を整備するため、体温検知カメラ・二酸化炭素センサーを設置し体温測定の徹底と効率のよい換気を行いたいと考えている。

(2) 実施内容

- ①非接触式サーモグラフィー端末②ポータブル発電機③二酸化炭素センサー
(<https://www.myokoen.jp>)

① 非接触式サーモグラフィー端末



法人の本部が所属しているコネクティブビルと入所施設妙光園に設置している。どちらも来訪者が多いが、感染症予防対策の基本である体温測定をスムーズに行うことができている。

②ポータブル発電機



入所施設妙光園で感染者が発生した場合、隔離先でも安定して電気を供給することができる。

③ 二酸化炭素センサー



二酸化炭素濃度が濃くなるにつれて数字・色で表示されるため分かりやすく、換気の目安になっている。センサーを設置することで換気に対する意識が高まった。

2 予想される事業実施効果

今後もコロナウイルス感染症対策は続いていくと予想されるが、サーモグラフィー端末の設置により来訪者からコロナウイルスが持ち込まれることを未然に防ぐことができる。マスク着用の警告も表示されるため、体温測定とマスク着用の基本的な対策を行うことができる。二酸化炭素センサーは、レストランスプレッドやコネクティブルの事務室で使用している。センサーを設置してからよりこまめな換気を行うようになった。